opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2014年4月)

今月の手紙にオプス・デイ属 人区長は、間近に迫る聖週間 を準備するために様々な方法 一例えば、ゆるしの秘跡に与 ること一を勧めている。

2014/04/05

する皆さん、イエスが私の娘たちと 息子たちをお守りくださいますよう に!

聖週間が近づくにつれて、できる限りよい状態でそのときを迎えようと

いやが上にも準備に熱が入り、救済 のみ業が頂点に達する出来事を思い 起こし、追体験しようと努めること でしょう。四旬節特有の個人的な回 心の熱意を倍加しましょう。

主は、私たちをいろいろな様相を呈するみじめさから救い出そうとこの世におくだりになりました。多くの人を害している物的な貧しさの上に、教皇様は、神を阻害することに

より生じる重大な貧しさ、つまり、 「道徳的、霊的貧しさ」に焦点を当 てておられます。道徳的な面では、 多くの男女、特に若者にみられる深 刻な依存症、実は隷属状態、アル コールや麻薬、賭け事やポルノに取 り付かれ、次第に悲しむべき状況に なっています。それは本人だけでは なく、助ける術を知らない家族をも 悲惨な状態にしてしまいます。「こ の貧困は経済的な破滅ももたらしま すが、それはつねに霊的貧困と結び ついています。霊的貧困はわたした ちが神に背を向け、神の愛を拒絶し たときに訪れます。自分のことは自 分でできると信じ、キリストを通し て働きかけておられる神を必要とし ないと考えるとき、わたしたたちは 堕落に向かいます。神のみがわたし たちを真に助け、開放することがで きるのです。| [ii]

私たちの内的戦いと生活で、こうい う人たちに喜びと平和を取り戻す小 道が、常にあることを示す必要のあることを忘れないようにしましました。それは、ゆるしの秘跡を通しも達成できることです。まず私たち自身イエス・キリストによって制定されたこの救いの手段をよりよくに与るれたことができるよう努めましょう。

「福音は、霊的貧困に対する真の特 効薬です。わたしたちはどこに行っ ても、キリスト者として開放の知ら せを告げるよう求められています。 それは、犯した罪はゆるされるこ と、神はわたしたちの罪深さよりも 遥かに偉大であり、わたしたちをつ ねに無償で愛しておられること、そ してわたしたちは交わりと永遠のい のちに向けて造られていることを伝 える知らせです。この恵みと希望の 知らせを喜びのうちにもたらす使者 となるよう、主はわたしたちに求め ています。このよい知らせを広め、 自分に託された宝を分かち合い、心 傷ついた人を慰め、暗闇にいる兄弟姉妹に希望をもたらす喜びを味わうことは、心が躍るようなことで実しまった。 見失った羊を愛情深ととれば、見失っに従い、倣うことを表します。 しません リカー ではない 大大 はい できるのではない 関係にできるのです。 」 [iii]

いたからです。「特に重要なことが 告解の使徒職です。常日頃主との友 情、つまり成聖の恩恵の賜に基を置 く友情があるときのみ、人はイエ ス・キリストの『私に従おうと思う なら…』(マタイ16,24)という招きを 受け入れることができます」[vi]と 言っておられました。

もうすぐ聖週間です。この聖性の手 段をどのように活用し、どのように 人々にその必要性を伝え、通常この 秘跡をどのように配慮しているか、 糾明しましょう。ヨハネ・パウロニ 世の列聖式が近づき、私はこの聖な る教皇様が、オプス・デイ属人区の 信者には「告解のカリスマ」がある とたびたび言われていたことを思い 出しています。これは、多くの人た ちを神の慈しみとゆるしの法廷に近 づかせるようにとの神の特別な恩恵 です。こうしてキリスト信者として の喜びを取り戻すことができます。 神との友情を保つために神のゆるし

に頼ることを疎かにしてはなりませ ん。

ドン・アルバロは復活祭が近づくに つれて、過ぎ越しの三日間を活用す るための準備にいっそう力をこめて おられました。こう言われたことが あります。「ご受難の間の師の一歩 一歩を心底からの奉献と気持ちを込 めて体験しつつ、<登場人物のひと り>となるように努めましょう。あ のひどい出来事において、心と頭を もって、主と聖母のお伴をしましょ う。主は私たち一人ひとりの罪のた めにお苦しみになり、お亡くなりに なられたのですから、私たちはあの 出来事に関わらなかったとは言えな いのです。私たち一人ひとりが、痛 悔の心を得るために、イエス・キリ ストの御苦しみに深く入り込む恩恵 を下さるよう、聖三位一体にお願い しましょう。聖なる創立者は、この 痛悔の心が非常に深かったので神へ

の愛において英雄的な水準にまで到達させたのです。| [vii]

当然なことですが、ドン・アルバロ は聖木曜日の典礼に感じ入っておら れました。ドン・アルバロは教会と 一人ひとりのために、キリストが聖 体と司祭職制定に表明された奉献を 人間的にも希望と喜びに満ち、考察 しておられたのです。イエスの最高 のいけにえを黙想し自分のものにす る熱意に燃えてMonumentos(ご聖体 に安置する仮祭壇)を訪れておられま した。それが荘厳にしつらえられた 教会を好んで巡り、神を常に歓迎で きる最良の準備を望んでおられまし t-,

この日々に典礼祭儀で朗読される聖書、特に、聖ヨハネによるご受難の場面に感動するとよくおっしゃっていました。主のご受難の個所を読み黙想し、聖十字架を礼拝するよう促しておられました。聖金曜日には

Lamentacionesを、復活徹夜際には Exsúltetを心を込めて唱えておられ ました。

感謝と希望をあらわすために、ポ ケットの中や机上の十字架に度々接 吻しておられました。創立者の勧め に従ってドン・アルバロがしておら れたように、私たちも神を心から愛 している人の真実の愛情を持ってイ エスと付き合いましょう。「十字架 像。キリスト者であるから、常に十 字架をたずさえていなければならな い。十字架を仕事机の上に置いてお きなさい。休む前や目覚めたとき に、心を込めて眺めなさい。哀れな 肉体が謀反を試みる時には、十字架 を握りしめて祈りなさい。| [viii]こ のような振る舞い方は、他の人々を 奮いたたせ、キリスト教的自然さ、 堅固な信心行為の手本になりまし た。

聖ホセマリアの最初の後継者を思い 起こすことは、この列福の年に各人 が信心を深めることを大いに助けて くれるでしょう。具体的に今、聖调 間を愛と感謝のうちに過ごすための 準備に役立てましょう。「聖週間の 情景をゆっくりと深く黙想しましょ う。ゲッセマニの園でのイエスに思 いを馳せましょう。身近に迫ったこ とをご存じでしたから、あの恐ろし い苦難に立ち向かう力を祈りの中に どのようにお求めになったことで しょう。あの時、聖なるご人性は友 人たちが物理的にも精神的にもそば にいることを必要となさいました。 使徒たちは主を孤独にさせます。 『シモン、あなたは眠ったのか。た だの一時間も目を覚ましていること はできなかったのか』(マルコ 14.37)。同じことを、あなたにも私 にも言っておられます。私たちはペ トロのように何度も死ぬまで主のお 伴をします、と断言しながら、たび

たび、主を置き去りにして眠り込ん

ドン・アルバロは、聖ホセマリアの 「学校」で主のご受難の黙想を学ました。ですから、既に書いたとこですから、既に書いりた。でする場面を念祷でしたりに、領したの登場人がよう私よう私のではより深く入れた自分のです。これによりによりではない。全人類の罪を償うというではないを突き動かされるではないを突き動かされる。手紙にこう打ち明けておられます。

「ご受難を黙想すると、償いたい、 主をお慰めしたい、御苦しみを軽く して差し上げたいという望みが心の 中に自然に生じます。イエスは全て の人の罪のためにお苦しみになりま す。この私たちの時代には、人間は 創造主を侮辱することに悲惨な頑固 さをもって精励するのです。償う決 心をしましょう。われらの愛なるお 方に沢山の喜びを捧げたいと全員が 感じているのは当然ですね?たとえ 小さくとも、私たちの落ち度はイエ スの大きな苦しみになることを本当 に分かっていますね?ですから、僅 かなことを重視するように、小さい 点に気を配るように、そして惰性に 陥るのを本当に恐れるようにと強調 したいのです。神は私たちに実に多 くを下さいました。神の愛には愛を もって応えるべきです。聖なる十字 架の上においでになるイエスに思い を馳せ、イエスに話しかけ、もっと 痛悔の念をもってゆるしの秘跡にあ ずかる賜を私は願います。われわれ

のパドレが教えてくださったように、20世紀も前からあの木の上においでになり、今度は私たちがそれに掛けられる番だからです。もっと多くの人をゆるしの秘跡に近づけたいという強い意欲を増してくださるようにということも主にお願いします。」[x]

復活の週の初め、感謝のうちに聖ホ セマリアの初聖体を記念します。そ れは1912年4月23日のことでした。 その日から、帰天日まで、ご聖体の イエスはなんとたびたびこの忠実な よいしもべ・創立者の心と魂に憩わ れたことでしょう。こうして主は、 十二分な恩恵で、教会の懐において 託すことになる使命のため、創立者 を準備されたのです。その後、27日 にはヨハネ二十三世とヨハネ・パウ ロ二世の列聖式が挙行されます。こ の日には、新たに二人の仲介者を持 つ喜びに溢れた感謝が天に立ち上る でしょう。お二人は、生前、オプ

ス・デイを認め愛しておられまし た。

特にミサ聖祭において、私の全ての 意向のため祈り続けてください。 皆、いつも教会と全人類とともにも サ聖祭にあずかってください。そ て、聖なる母・教会から遠ざかった り、教会を攻撃したりしている人た ちのために祈ることを必要としてい さい。愛されることを必要としてい る人たちですから。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2014年4月1日

[i]教皇フランシスコ、2013年12月26 日四旬節メッセージ。

[ii]同上。

[iii]同上。

[iv]ローマ 13,14参照。

[v]聖ホセマリア、『道』310番。

[vi]ドン・アルバロ、1993年12月1日 手紙(家族の手紙III, n.272)。

[vii]ドン・アルバロ、1987年4月1日 手紙(家族の手紙I, n.295)。

[viii]聖ホセマリア、『道』302番。

[ix]ドン・アルバロ、1987年4月1日 手紙(家族の手紙 I, n.295)。

[x]ドン・アルバロ、1987年4月1日 手紙(家族の手紙I, n.298)。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-4yue/ (2025/12/16)